

開催地名：愛知県日進市	
開催日時	令和4年11月14日（月） 10：00 ～ 11：30
開催場所	日進市役所（オンラインによる講演）
語り部	鈴木 秀光（宮城県気仙沼市）
参加者	日進市職員 40名
開催経緯	<p>当市では、南海トラフ巨大地震における震度が、市内全域で震度6弱以上になると予測されている。東海豪雨以降大きな災害に見舞われていない状況であるが、災害発生時には全職員による災害対応が必要不可欠であるため、災害対応経験の少ない若手職員を中心とした災害対応等、防災意識の啓発が課題である。</p>
内容	<p>（1）震災の被害状況</p> <p>気仙沼市は面積が333.36平方キロメートル、水産業と観光が中心の太平洋に面した市である。明治以降、明治三陸地震津波、昭和三陸地震津波、チリ地震津波による被害を受け、津波に対する経験と対策は一定程度保持していたし、行っていた。しかしながら、平成23年3月11日、14時46分頃に三陸沖で発生した地震は、マグニチュード9.0の大規模なもので、東北の太平洋側は想定外の津波による大きな被害を受けた。気仙沼市でも40隻以上の大型船が陸上に打ち上げられ、約3,000隻の漁船が流出・損壊した。テレビ等でご覧になった方もいると思うが、共徳丸という全長50メートル、330トンの船が港から800メートルも内陸に移動した。海から約500メートルの位置にある気仙沼向洋高校では、校舎の4階まで津波は到達した。市内の浸水面積は18.65平方キロメートルで市内全体の5.6パーセントに及ぶ。気仙沼市での死者数は1,034人を数え、行方不明者も212人、震災関連死と認定された方は109人にのぼった。死者・行方不明者数の合計は、気仙沼市全体の人口の約1.8パーセントにあたる。被災家屋も15,815棟にのぼり、市内全体の約40.9パーセントにのぼった。震災によって、被災した事業所、従業員は全体の8割を超え、震災直前には約74,000人いた人口は、59,141人まで減少している。（令和4年10月末現在）</p> <p>（2）震災の教訓と今後の心構え</p> <p>大規模な地震と津波は想定をはるかに超えており、多くの試練をもたらした。浸水区域外と想定されていた市役所前の道路は瓦礫で埋まり孤立し、庁舎は浸水のため停電した。避難所では自家発電機が故障して使えないところもあり、市内で給油ができたガソリンスタンドは3か所のみであった。緊急車両が優先だとはいえ、通院や遺体確認、火葬等、一般住民の需要も無視することはできず、燃料の配給にも手間と時間を取られた。停電が市内全域で解消されたのは震災から2か月後、水道の復旧は3か月後であった。</p> <p>市内の避難所は最大105箇所へのぼり、1日2食の食料を提供した避難者数は20,000人以上に上った。大規模な災害であったため、防災計画で想定していた避難所の他に、コミュニティセンターや寺、大きな家も避難所として機能した。市の職員だけでなく、地域住民や公民館長、議員などが率先して統率し、階上中学校には1,600人の避難者が体育館や各教室に避難した。学校では生徒や学生が強力な支援者であり、配食の手伝</p>

いなどで活躍した。避難所で不足していたものとしては、仕切りや床に敷くマット、着替え場所、シャワー、トイレ等の一般生活に必要な物品やスペースにとどまらず、病気の方の薬や、透析患者の対応等、命に係わる問題もあった。特に透析患者の方々への対応については、全ての患者に対して市内での対応ができなかったため、93人の透析患者については、千葉や秋田、山形、北海道への患者移送が行われた。

避難所の運営について言えることは、防災計画を準備しておくことの重要性はもちろんであるが、災害が発生したときに、その場で判断・決断・行動ができる人がいなければならないということである。そのような、住民のリーダーとなれる人材の育成についても、今後は取り組んでいく必要があると強く思った。

日進市も今後、愛知県東海地震・東南海地震・南海トラフ地震などの大規模な災害に見舞われることも想定される。この地震では、市内全域で震度6弱～6強の揺れが予想されており、避難者数は約8,300人、帰宅困難者数は11,000人～13,000人にのぼると想定されている。大事なことは、過去の地震規模のみならず理論上最大限のケースを想定しておくことである。また、その震災が単独で起こるパターンだけでなく、連鎖的に、または時間差的に起こる可能性もあるといえる。さらに、地震が発生する時間帯によって、被害や対応についても変わってくる可能性も含め、皆さんで考えなければならないことはたくさんあると思う。

気仙沼市は、全国、そして全世界から非常に多くの支援を受けた。他の自治体の方々に同じ思いをさせないためにも、我々が得た教訓を伝えていくのは、被災自治体の責務だと考えている。「フェーズゼロ」、つまり、「今日は災害の前日であるかもしれない」という意識を念頭に置いて、具体的な災害対策を考えていくことが重要である。今できることは何か。考えて生活していただきたいと思う。



開催地より

講師の方には、東日本大震災時の状況について、資料を基にわかりやすくご説明いただき、本日参加した当市職員には非常に参考になったと思う。今後当市としては、市職員の防災意識向上のための啓発と、災害発生時の初動体制の強化に積極的に取り組んでいきたいと思う。